

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

土貢管見録

卷中

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

經濟學部
研究室
5
11344

是の条、漢の上流の方、存身に可成、漢の四年、日、

上北、漢の沙都、漢の味、漢（尸）^{（尸）}、漢の漢、漢の上

、漢の漢、漢（相）^{（相）}、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

一、^{（一）}、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、漢の漢、

合四所出書是也

修 古書名目 八 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

九 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十一 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十二 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十三 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十四 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十五 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十六 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十七 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十八 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

十九 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十一 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十二 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十三 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十四 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十五 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十六 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十七 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十八 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

二十九 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

三十 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

三十一 此書名目 此書名目 此書名目 此書名目

石及至石等
伍大及九等中末

一 田量及

い有以三百三拾歩

中色 壹歩 七三三〇一七

い有粗沙石三才三才

い有粗沙石三才三才

二

外三才八才

伍大及今石下

七才七才

多倍積三三才上四及

七才 三下 石四及

三才三才之三 上及長 法御及

今三才三才之三

伍大及今石下 法御及

伍大及今石下

今三才三才之三

伍大及今石下 法御及 今三才三才之三 伍大及今石下 法御及

石及至石等
伍大及今石下 法御及

一 田量及

い有以三百三拾歩

茶条包壹歩 七三三〇

い有粗沙石三才三才

初八才七才

法御及今石下 法御及

伍大及今石下

法御及今石下 法御及

伍大及今石下

伍大及今石下

伍大及今石下

二

外三才七才

伍大及今石下

六才六才

伍大及今石下 法御及

三才三才之三

法御及

今三才三才之三

伍大及今石下 法御及

如首并公序

修乃其言身中末七台 他世

何又到此世後乃其言身中末七台 何又到此世後乃其言身中末七台

石之四柱之毛上乃其言身中末七台 何又到此世後乃其言身中末七台

一 何又到此世後乃其言身中末七台

何有以三百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

石之四柱之毛上乃其言身中末七台 何又到此世後乃其言身中末七台

一 何有以八百三拾步 何也取也

何有以八百三拾步 何也取也

法初書紅紙片之本 宜初及

付及六片書本合

美合八片書本合

布之片書本 係大及片下二片

三片書本 宜初及二片到二片上四及

三片七合 系 右四及

三片三書本合 注掛及

合八片書本合 係小換片所五掛及

血片及合片

係片及書本合 此掛及

係之刻也係換及片合二片四及三片七合 法初及二片到二片
書本之書本合押也二片片換及二片二片二片

乃之四片之毛上片小換片之書本限之刻也係換之二片
通

有及片書本
係及及片書本

一 四書及

以首以二片之四片

以二片初九片書本

以二片及二片書本合

有二三片書本 係及及合片下二片

三片三片 係及及合片二片到二片上四及

三片三片 六片及

三片三片書本合 注掛及

合七片書本七合 係小換片所五掛及

血片及合片

係及及片書本合

係之刻也係換之書本二片書本二片書本二片書本二片書本
押也二片書本二片書本二片書本二片書本二片書本

石之田之云云之氏之是世法乎刻世法之云々也

一 田之氏 兼条主出之云云

付有以之白之推止つ
付有親九身九末

二 初沙沙末

注掛也之也于城久也引在分元初之知屋分条

三 初七身六末

兼条主出之云云

兼条主出之云云

四

兼条主出之云云

即沙末之云云 兼条主出之云云

即沙末之云云

兼条主出之云云

世有兼条主出之云云

兼条主出之云云

注之刻世法兼条主出之云云之也
引注之沙沙末之云云之也

一 石之通之次身之云云以下之云云上之云云之能合注之刻下

注之引之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
各列之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下
兼条主出之云云之能合注之刻下

檀檀之應于滅引方不耕砂と及後之及也

一初及列帳の上他及下及去高と上り下り下及及後ゆゆ

是二表而之及海とて心也及心世樹と尚志とて及及及及

見して上及及及及及及及及及及及及及及及及及及

後り之及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

月一と及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

外に何也子細等とて及及及及及及及及及及及及及及

新に世核とて及及及及及及及及及及及及及及及及及

少大法とて及及及及及及及及及及及及及及及及及及

野と相見るとて及及及及及及及及及及及及及及及及

何大則也世核とて及及及及及及及及及及及及及及及

記新とて及及及及及及及及及及及及及及及及及及

五十三

一汚是及及及及及及及及及及及及及及及及及及

いれ及及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

上汚是及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

羊同相物とて及及及及及及及及及及及及及及及及及

何也等

何也等味及及及及及及及及及及及及及及及及及及

一六汚是及及及及及及及及及及及及及及及及及及

と境同能相とて及及及及及及及及及及及及及及及及

濁とて及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

傳及及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

原と及及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

一及及及及及及及及及及及及及及及及及及及及

一 初、川合路、下見、陸系、高下、世取、如何、如何、
如何、高下、如何、後、讀、道、上、右、行、川、合、
川、合、其、相、と、世、取、其、相、と、あり、た、り、
の、初、之、毛、上、川、合、有、四、之、編、り、者、合、川、合、
り、女、勾、配、相、り、其、相、也、上、之、若、志、推、れ、知、
世、取、之、毛、右、身、に、あり、右、身、に、川、合、之、
又、ハ、九、斗、川、合、之、毛、と、多、く、主、身、に、
之、不、仁、強、く、場、系、に、下、及、列、之、毛、上、多、く、
場、系、不、毛、上、と、推、れ、ら、知、れ、
見、は、仁、の、
之、は、仁、の、
下、見、仁、の、

毛上下及列、場系とも、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、
之、は、仁、の、

後、次、北、の、
後、次、北、の、

月收紀陽のつらまをくし役人申月也るこまに條一と
みらびここばさ最又つ後言系役人付源移入言や且
又難をきくは言入言はく難入一能初であつはりのは
の内換より算中く初之紀一申手初より以切をり難
をり入言は難入言はり入言はり能初より申の内換算も後
子入言はり入言はり又ハ横代などの上こ一申一ハ並ハ
初合の取ら初来初言初々ともあつて是も根意あつた
く初ハ初及屋ハ初初ハ初

一 沙武例同縁は是部ハ通

沙武例同縁

一 下ハ初ハ初

初ハ初ハ初

及ハ初

七之
何系

無言教何初
け言初何初

此ハ初例初来初言初々一 是言初何初完

内

何初 見言初ハ

何初何初

初ハ初ハ初ハ初

ハ

年号月

何初何初
何系

何初何初

何初何初

何初何初

一石例因縁に於ては、元之安方第一也。至相違に於ては、又
大沙試に起刻之に、各別少キ最、小内儉分、五分以、及元氣
尸建、合一沙試、存身、沙試、又、各別起刻、右、沙試、存身、
魚、以、節、以、主、候、存、身、沙試、存身、沙試、存身、以、主、節、以、節、
保、以、主、候、以、起刻、之、次、二、沙例、掛、一、候、起刻、之、以、以、主、意
記、紅、玉、尸、以、主、候、以、主、節、以、節、以、節、以、節、以、節、以、節、

一沙試例起刻に起刻一沙掛に起刻存身事に掛
此掛刻に及之と云は、節一沙試漢之上、起刻に及之、
存身事に事

但三歩集寸法、沙掛、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
至方七合、三、沙、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、

法沙神に沙に福に、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
一、沙、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、

一沙試に、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、

一、沙、以、主、候、存身、事、

一、沙、以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、
以、主、候、存身、事、以、主、候、存身、事、

年物汁より之し酒類少く身積用汲ふるより身合和込人合
ふりしより之し中例同様紅玉方より酒類茶葉より也

一 汚漬樹村より海へ

汚漬は是れ和飲は村より海へ少く酒類少く酒類少く
後より酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
樹村より海へ酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
書入酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
白紙と見酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
多酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く

後汚漬例は村より海へ酒類少く酒類少く酒類少く

酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く

一 汚漬酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く

一 汚漬之率

汚漬之率は酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く
酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く酒類少く

上中分して不又合入の物をけり而刻語して小方角の籠り時
毎年の年天の三年の流るる節に二回格の修身事を知意以六年
より上下一例の修身事とすは流るる中流儀一更の上例の相格
尸格の事

但例の山法又各列の四度未右例の事格との流
毎年の年天の三年の流るる節に二回格の修身事を知意以六年
より上下一例の修身事とすは流るる中流儀一更の上例の相格
尸格の事

一上例の流るる節に二回格の修身事とすは流るる中流儀一更の上例の相格
尸格の事

一上例の流るる節に二回格の修身事とすは流るる中流儀一更の上例の相格
尸格の事

一上例の流るる節に二回格の修身事とすは流るる中流儀一更の上例の相格
尸格の事

但取例は、其の例不列揚を、又、こゝに於て、
初より、主として、上と下との、
大なる、主として、
言振上と、
月仁と、

一、把例は、
不同なる、
少く、
改其上、
初、
何、
仁、

一、
初、
中、
刻、
余、
上、
主、
注、
掛、
換、
下、
一、

一 禮券名帳之りし事

但右頁の至末至之口之帳之りし事

一 此等取上毛上座見帳帳票及苦度其并法分上中下
得い多之實友視之見帳より中心之新帳地より
得口之帳より上座及之帳より上座并何未す
及掛忘度及之帳より中毛、度亦并より之也
上座及之帳より中毛、苦度并何未す
其友至計、得い多之りし事

一 此等取上毛上座見帳帳票及苦度其并法分上中下
得い多之實友視之見帳より中心之新帳地より
得口之帳より上座及之帳より上座并何未す
及掛忘度及之帳より中毛、度亦并より之也
上座及之帳より中毛、苦度并何未す
其友至計、得い多之りし事

但右頁の至末至之口之帳之りし事

名存録帳票より得い多之りし事
帳面は正しし事

一 是等取上毛上座見帳帳票及苦度其并法分上中下
得い多之實友視之見帳より中心之新帳地より
得口之帳より上座及之帳より上座并何未す
及掛忘度及之帳より中毛、度亦并より之也
上座及之帳より中毛、苦度并何未す
其友至計、得い多之りし事

一 細沙損引移之江法在道

一 在座及之帳より中毛、度亦并より之也
上座及之帳より中毛、苦度并何未す
其友至計、得い多之りし事

但右頁の至末至之口之帳之りし事
一 是等取上毛上座見帳帳票及苦度其并法分上中下
得い多之實友視之見帳より中心之新帳地より
得口之帳より上座及之帳より上座并何未す
及掛忘度及之帳より中毛、度亦并より之也
上座及之帳より中毛、苦度并何未す
其友至計、得い多之りし事

一 大小定、其法分上中下、得い多之りし事

何と云掛と申すは、今、腰茶、細方、茶、下、上、行、
合、原、上、細、方、と、傳、傳、美、水、を、し、し、し、釋、坐、福、座、茶、
し、法、化、の、多、く、下、知、山、細、杯、に、行、り、し、し、し、行、り、
後、り、之、の、多、く、は、傳、の、極、し、云、云、掛、は、行、り、し、し、
此、原、茶、を、し、し、の、し、し、し、

一、粟、以、分、の、毛、上、行、り、上、中、下、し、腰、茶、以下、是、腰、紅、茶、
同、細、方、茶、と、入、試、し、し、し、見、て、思、へ、上、毛、の、行、り、
中、毛、の、行、り、下、毛、の、行、り、と、上、細、方、茶、と、傳、傳、と、云、
し、し、是、で、傳、見、し、し、掛、と、申、す、

伝、傳、茶、を、茶、又、合、し、し、し、大、到、心、地、に、し、
細、方、茶、の、行、り、上、細、方、茶、の、行、り、
茶、傳、傳、茶、の、行、り、上、細、方、茶、の、行、り、

云、云、三、月、に、下、り、し、し、上、出、茶、の、行、り、
云、云、九、月、に、下、り、し、し、上、出、茶、の、行、り、
是、を、建、れ、し、し、の、行、り、

一、粟、以、分、の、毛、上、行、り、上、中、下、し、腰、茶、以下、是、腰、紅、茶、
同、細、方、茶、と、入、試、し、し、し、見、て、思、へ、上、毛、の、行、り、
中、毛、の、行、り、下、毛、の、行、り、と、上、細、方、茶、と、傳、傳、と、云、
し、し、是、で、傳、見、し、し、掛、と、申、す、

一、細、方、茶、の、行、り、上、中、下、し、腰、茶、以下、是、腰、紅、茶、
同、細、方、茶、と、入、試、し、し、し、見、て、思、へ、上、毛、の、行、り、
中、毛、の、行、り、下、毛、の、行、り、と、上、細、方、茶、と、傳、傳、と、云、
し、し、是、で、傳、見、し、し、掛、と、申、す、

自、云、
此、行、り、の、行、り、上、中、下、し、腰、茶、以下、是、腰、紅、茶、
同、細、方、茶、と、入、試、し、し、し、見、て、思、へ、上、毛、の、行、り、
中、毛、の、行、り、下、毛、の、行、り、と、上、細、方、茶、と、傳、傳、と、云、
し、し、是、で、傳、見、し、し、掛、と、申、す、

通し到増極過ぎり故に承清有言云々
相考に偽の定以六年一統以掛に至るに偽
方に回ると云々四掛に文に云々
形之内に以掛を至るに偽は横区に偽身
一歩に偽に相考し以史に押除を列展
横区より承清の如くは懸解細横引
宜しき事柄を以て承清の如くは懸解細横引
宜以以後記す以史に偽は横区に偽
宜しき事柄を以て承清の如くは懸解細横引
一石橋より懸解細横引より承清の如くは懸解細横引

一六く包に支細細横引の容易は懸解
一六く包に支細細横引の容易は懸解
一六く包に支細細横引の容易は懸解
一六く包に支細細横引の容易は懸解

加筆

二和八月之修身

一 不足取麻於以氣以清樹之知室房年申分玉及樹之修身也而天
賢之身以各別之室至也天不足以道也人所人知也禮文也
以清樹之修身不友樹又而百姓也也之清也又而清樹大
夏以上之修身也拾取記之相是之清也上不足之修身也不
以年

一 不足取麻於以氣以清樹之知室房年申分玉及樹之修身也而天
賢之身以各別之室至也天不足以道也人所人知也禮文也
以清樹之修身不友樹又而百姓也也之清也又而清樹大
夏以上之修身也拾取記之相是之清也上不足之修身也不
以年

一 不足取麻於以氣以清樹之知室房年申分玉及樹之修身也而天
賢之身以各別之室至也天不足以道也人所人知也禮文也
以清樹之修身不友樹又而百姓也也之清也又而清樹大
夏以上之修身也拾取記之相是之清也上不足之修身也不
以年

一 胡麻 上 中 下
上 中 下
中 下

一 雨胡麻

一 荏子 上 中 下
上 中 下

一 小角足

上 中 下

小角足
大角足

一 大麥 上 中 下
上 中 下

一 蔴 上 中 下
上 中 下

一 大麥 上 中 下
上 中 下

一 大麥 上 中 下
上 中 下

一 荏子 上 中 下
上 中 下

一 小麥 上 中 下
上 中 下

一 小麥 上 中 下
上 中 下

至房年中分五文樹之修身也而天
 下之人心也何人とも之文也
 とも之文也何人とも之文也
 とも之文也何人とも之文也
 とも之文也何人とも之文也

今之拾芥記極矣

一雨胡麻 上 下
 中 下

一不爾度 小角足
 上 中 下

一黍 一粟

一粟

一粟

一耕の文意の事入
 物也の漢文も
 物也の漢文も

小角足
 大角足

一不麦、兼平年十月 一芋名、兼平年三月

但持麦之兼平年見
是合ナリ

一廿多、百周年 兼平年三月末ニナリ
代ナリ

一木綿拾貫、同、兼平年

但延宝年中云及州ノ修守

一唐綱、同上根分 一河漢、口根分

一雜糶、口六 一海老、口六 宝曆七年三月
傍同上

一姥貝、口六 一波江場、口六

一波江場、口六 宝曆七年三月末
同上 一普段納札、口六

但亦之札と云々傳ハシテ亦之札と云々
及ナシ及ナリ

一普段雜糶、同上根分

但亦之札と云々傳ハシテ亦之札と云々及ナリ

一普段拾札、口六

但亦之札

亦元禄七年十月迄拾札ノ下

一了、同上根分 一鴨流締札、同上根分

一渡砲札、口六 一猪造札、口六

一物札、口六

一七、同上 一十、同上

一中、同上 一十、同上

石元禄七年迄拾札ノ下

五十 一 河是後前帳之半

河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半

河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半
河是後前帳之半

五十一 一 秋河是下極用録之事

秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事
秋河是下極用録之事

五十二 一 秋河是相之半

秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半

秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半
秋河是相之半

い城布方上和法給知信成或信新化と先限く為月ラ口ニ記
協行ニ及信到道又ハ及見立と記重キ物下之限系く之ニ極ラ
是下才並ハ何くニ道ニ事也記一極合ニ之是ニ信掛く判
傍也加へ信極何れと記ニ信極也ニ刻ニメ之ニツと信来と記
先限ニ紙ニ之重くハ信極来人別後之限系境田以信来手
今ハ何事

但石見立とハ信極掛く常判坊不然初方下見帳前
見立初通う信身ハ月換分下見帳一紙ノ名見立と
字記相極何と文てハ帳ノ口ニ書記ハ何人別く
見立初也重ニ之刻ニメ信来ラ何上ハ又石見判坊
ハ信極ニ重く見立初ニ重判坊ハ信極掛く信身ハ信極
重判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊

時ハ重判坊ハ信極判坊ハ信極判坊

一初也判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
云々判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
大判ハ判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
略して重判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊

又ハ何事

一入判坊判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊
判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊ハ信極判坊

又中四の初めを引く来の時兼、一七五の初めを引く上
他は、何れも引く作徳を以て又下回りの初めを引く来、
時兼、メ九引く上四引く上他は、何れも引く作徳を以て
又下回りの初めを引く来、一七五の初めを引く上四引く
上他は、何れも引く作徳を以て又下回りの初めを引く上
他は、何れも引く作徳を以て

一七五の初めを引く上四引く上他は、何れも引く作徳を以て
又下回りの初めを引く来、一七五の初めを引く上四引く
上他は、何れも引く作徳を以て又下回りの初めを引く上
他は、何れも引く作徳を以て

一七五の初めを引く上四引く上他は、何れも引く作徳を以て
又下回りの初めを引く来、一七五の初めを引く上四引く
上他は、何れも引く作徳を以て又下回りの初めを引く上
他は、何れも引く作徳を以て

天皇氏ハ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也

天皇氏ハ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也
御意ニ御意ニ地方ヲ揚々上御仁ニテ上ニ造用掛也

一 法以僅原割帳

此法以僅原割帳之法
 以法以僅原割帳之法
 僅原割帳之法以法以僅原割帳之法
 之令也此法以僅原割帳之法
 一 更先中二六四也於此中
 則一節按原法也
 至一法也

一 新四也毛上法見帳

此法以僅原割帳之法
 則見其帳之法
 層也而性之法

相記也取合之法
 一冊之法
 層法百性連之法

一 六法見帳之法
 見分帳之法
 一 六法見帳之法

中毛の行種下毛の行種と一版毎に上側文字より下側文字
兼り身模周返を寫し居る也後人等其の行種を
相傳へたるは、傳へた所居るが如く未だ、
張るべき所を以て記すに止る

五十八

一 新四地徳身下り物周縁の事
此の地は徳身下り物周縁の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算を又推考元仁上中下三行位心算の事
上中下三行位心算の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事

中毛の行種下毛の行種と上側文字より下側文字の如く
上作並に短と云ふは上り下りとは是合字及相物より身
の儘而して、
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事

五十九

一 新四物徳振振の事

此の地は徳身下り物周縁の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事
徳美太相次の上の地居る所は身模周返の事
上中下三行位心算の事

新田地酒米上代信之事
川河陸尾信家一紙之取後酒米也格々言蓋（血酒米）云々
衆人列之衆之云信様信家酒米之信美也事託其合之計米事也
子此之徳也信家信家之形也此信家酒米之計換目没
若事裏事志人列之計換目也

但し信之証果其信様同知地方用之信面三村也
屋江百姓色名信也此信家酒米之計換目没為上江
信美之上加年久村方信酒也

一 汚殺免罪加罪格之事
計此汚殺免罪一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
田知取教事託其信家信家之形也此信家酒米之計換目没
此信家酒米之計換目没

但し信之証果其信様同知地方用之信面三村也

一 信様之形也此信家酒米之計換目没為上江
村方信家酒米之計換目没

一 上知汚殺免罪一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
計此上知汚殺免罪一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
知家信之信家信家之形也此信家酒米之計換目没為上江
一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
以信家酒米之計換目没為上江
人此一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
計此上知汚殺免罪一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江
計此上知汚殺免罪一紙之取也此信家酒米之計換目没為上江

与に給人一冊取く視る如く之を二冊とす不同給是地下
汚損引下と之始り或は紅土上知視るを歩ツ所を以給知視
手授りたり歩ツ所を以之と一冊取んを刻付年より相石
下米穀の歩ツ所を以之と一冊取ん列紙の面を以紙菓を一冊
取之授之汚損引下二下是紙菓取く一冊取ん一冊取ん
授之是を以紙菓取く刻付を加へて一冊取ん一冊取ん其
分法食物作徳米亦其日物授之是で一冊取ん一冊取ん
是引下米穀を以石法を以用紙を以紙菓取引上
子と授之今余元とて視る一冊取ん

但之候は掛引は紅土書に之と云之到候も札取は給ふ
一冊取ん一冊取ん知夫是也一冊取ん一冊取ん相取り掛引は
紅土書に之とて之之取引也方換方と引分テ了不

若者相見して相通と爲人互相知りて元書に之を
引下給紙汚紅土有以給人書りては同文の
分は能念之と書以玉根元同元一より上知は
一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん
不之給付り

六十三

一冊取ん一冊取ん

以紙菓取上知給地一冊取給一冊取給汚損方新地一冊取給而
之等ふして初之及列紙菓を一名取之は以紙菓取之其
同と爲是地下也付下知及列下不手入是引給高紙菓取之元
新付しは玉上知紙菓取一冊取給合之は初之が法に之
一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん
一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん
一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん一冊取ん

後高松藩意帳之書卷之仁

帳之半

丹波郡方山方新地一冊之無
天政帳一冊申方上何兼帳
年二月限出度屋仁出
沙郡代出申申支沙郡力

年

知新地之由書帳帳卷一各限
極意記之有知屋 兼記之極意
以度法度費地知所引下
引下之引下及列帳卷引下

高松藩之由書帳帳卷一各限

高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限

高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限
高松藩之由書帳帳卷一各限

高松藩之由書帳帳卷一各限

高松藩之由書帳帳卷一各限

取教とて不究之と名茶限之和茶之仁之と一紙之と一紙之
引所及之と未入合定之と及未入合定之と未入合定之と

一市方上
一合定
一其
一

取教とて不究之と名茶限之和茶之仁之と一紙之と一紙之
引所及之と未入合定之と及未入合定之と未入合定之と
一市方上
一合定
一其
一

取教とて不究之と名茶限之和茶之仁之と一紙之と一紙之
引所及之と未入合定之と及未入合定之と未入合定之と

取教とて不究之と名茶限之和茶之仁之と一紙之と一紙之
引所及之と未入合定之と及未入合定之と未入合定之と

一市方上
一合定
一其
一

一紙三つは之より一紙九つと意地取
ふふ紙の重なりは事

大文字の紙を以て見ると一紙九つと意地取
は事

一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事

一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事

一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事

一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事
一紙九つと意地取は事

汚棄月杖夏方園塚六調上りゆ事

一 新四地清其限之率

以如文允中文允三年以兼同六年之由身之上四地系空比等
一 以如也其子保以四枚徳其及高以清掛下地園塚系分初列書也
一 一紙之江之之内不新中も高其地後其不所引之汚上四
一 一紙之江之之内不新中も高其地後其不所引之汚上四

一文允二年已後其身分保任之方石同格一紙徳其之内

三ノ一汚都方上何王ノ不舎不故之汚身是之ノ重ノ不ノ江至輕ノ

一 一ノ二後ノ杖由前系汚免帳同格年々十一戸限以由度屋

江之右和ノ度屋名系中輕ノ汚都代度中平之文汚都方

汚在ノ江中尚上ノ六汚之杖一戸調達江ゆ事

三十五
一 汚年賣以水之庭限之率

以如也此新水汚免到杖系其法其庭限系以如也清其杖系

身之記以之外更之而ノ八并ノ庭限度之杖并其系四度身

又一ノ半半身及比ノ復初代其初舎系庭身係保身而ノ宿

礼兼初復也其夫ノ其初而庭限口入也身之ノ到四取到初

並到夫ノ其庭身限初身ノノ外交根帳初分事託以又文允ノ

身之汚到賊ノ汚身以上身一其身身或ハ是也取四徳身難

職陪官上其夫ノ其根根杖系分相礼其身之是之汚其口ノ

以是又保其是比ノ換引ノ事ノ而ノ不ノ身ノ四押ノ之汚其口ノ

江之是也高年ノ其神ノ事ノ一ノ一汚年賣以水之庭限度之

人列ノ讀海又不礼ノ認又相海ノ事

江之是杖系ノ其身ノ二身中ノ庭限系ノ書記ノ其庭限度ノ
口中ノ交其主ノ其ノ格ノ一換ノ其身ノ事ノ一

一 度限外支帳帳之事

此帳中ノ度限外支帳帳ノ事ハ印切ノ為ニ度限口入支度ノ帳目
掛替ノ掛切支帳ノ付ケ帳面先ヨリ割賦仁八月申ニ以テ度限
加算支度支度ノ仁又度限外支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ
帳ノ事ト云フ事

一 上ノ度限外支帳帳之事

此帳上ノ度限外支帳帳ノ事ハ印切ノ為ニ度限口入支度ノ帳目
掛替ノ掛切支帳ノ付ケ帳面先ヨリ割賦仁八月申ニ以テ度限
加算支度支度ノ仁又度限外支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ
帳ノ事ト云フ事

一 度限外支帳帳之事

此帳中ノ度限外支帳帳ノ事ハ印切ノ為ニ度限口入支度ノ帳目
掛替ノ掛切支帳ノ付ケ帳面先ヨリ割賦仁八月申ニ以テ度限
加算支度支度ノ仁又度限外支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ
帳ノ事ト云フ事

一 度限外支帳帳之事

一 度限外支帳帳之事

此帳中ノ度限外支帳帳ノ事ハ印切ノ為ニ度限口入支度ノ帳目
掛替ノ掛切支帳ノ付ケ帳面先ヨリ割賦仁八月申ニ以テ度限
加算支度支度ノ仁又度限外支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ
帳ノ事ト云フ事

一 度限外支帳帳之事

此帳中ノ度限外支帳帳ノ事ハ印切ノ為ニ度限口入支度ノ帳目
掛替ノ掛切支帳ノ付ケ帳面先ヨリ割賦仁八月申ニ以テ度限
加算支度支度ノ仁又度限外支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ支度ノ
帳ノ事ト云フ事

文之如一紙之秘、而他人知其、其多有、以又近年、
亦實之方保、其有、為實、其有、他、方、保、身、以、年、為、計、
由、如、其、他、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
四月、才、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
一、本、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、

二十五

一、道、口、通、帳、之、事、

以、道、口、通、帳、以、不、仁、心、殺、實、實、以、停、止、存、身、以、上、他、方、保、身、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、

近年之文業之物下一流筆發、
他、行、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、

近、年、之、文、業、之、物、下、一、流、筆、發、
他、行、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
以、其、方、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、

- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、
- 一、沙、華、身、其、道、秘、知、者、以、一、年、之、他、方、保、身、其、秘、知、者、

記切帳二徳来より何身記し不之知以是加不仁六之也
拂方より前より後身海不六六日めし事

一 汚年費時所より村に住み身出及び也帳に何量文也年費
正し御道何六以文来より上流上包帳に之思居層加不之也身
出以前より和居層も元古何来何儀より一と汚身帳に和居層
取合より後より六より及口也帳に身入日身儀附より加不之也
主より事

六十七
一村の年費上紀通帳之事

此の文来より汚之限在何方記上何及浪汚部方記上何及浪汚部
何及浪汚部と思及且上及何及浪汚部と一切何方不何記し何計
帳口より何切何神より何危帳に也大及代表文代汚及汚方未及
造より後より之次より何神より一と及より小切より何及何帳

貸地内心

六十八
一村の汚源同返之事

何記何来元より何出より何及元之根帳に身出前より
刻何の何及元也より何及元之根帳に汚源より何及元之根帳
何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
對面より上何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳

此の文来より汚之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
方別後より何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
其費比何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
亦何水及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
合何神より何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
浪上何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳
法何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳に何及元之根帳

二德来より石河丹記に示す如く、
一節、依りて、
二節、依りて、

三節、依りて、
四節、依りて、
五節、依りて、

六節、依りて、

七節、依りて、
八節、依りて、
九節、依りて、

貨地恩及之来

一、依りて、
二、依りて、
三、依りて、

四、依りて、

五、依りて、
六、依りて、
七、依りて、
八、依りて、
九、依りて、

三三

一 近代官立銀行の発展と事業

近代官立銀行の発展と事業は、明治維新の初期に於て、
 政府の政策として、銀行の設立を奨励し、
 官立銀行の設立を命じた。これにより、
 明治六年に第一国立銀行が設立された。
 この銀行は、政府の政策を執行し、
 銀行の発展に貢献した。

明治六年に第一国立銀行が設立された。この銀行は、
 政府の政策を執行し、銀行の発展に貢献した。

一 明治六年の第一国立銀行の設立と事業

一 六四日限割と事業

六四日限割と事業は、明治六年の第一国立銀行の設立と事業に
 関係する。この限割は、銀行の発展に貢献した。

相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

一 相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

一 相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

一 相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

一 相記の字は、其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、
其の如く、或は相記の字は、

此帳三子記皆飲之... 十日... 涉都代... 入... 抄

此代官皆... 同... 記... 水... 相... 紅子... 抄

此... 記... 水... 相... 紅子... 抄

招神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記
御神合主主味与初神代治極く後く上純通懐不記

一皆深淵源任上乃三月十日...
上乃身色比乃日延延...
方極成子代...
乃...
乃...
乃...

七十

一皆深淵源任上乃三月十日...
上乃身色比乃日延延...
方極成子代...
乃...
乃...
乃...

而可志...
取与...
乃上...
乃上...
乃上...

七十

一皆深淵源任上乃三月十日...
上乃身色比乃日延延...
方極成子代...
乃...
乃...
乃...

文化十二年二月九日 宛方分月 宛双場又二山嶺上 宛原
代宛王く宛方 宛根根 宛官 宛前 宛調 宛之 宛承 宛念 宛具
宛乃 宛事 宛

宛本 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛

宛事

二月廿日 宛事

宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛

宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛
宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛 宛宛

宛事

河是陸家裏 交方國源之

以河去秋河之枯一葉也其法河所上北山檢信美相併以上加立
三月至五月止知石形比多一冊涉信知多一冊六二冊字帳
祖是後方上紀東浪交方國源也涉部方部地涉單
資法上紀東浪交方國源也祖是仁小以帳國源河
部方涉單地紀加部一上以美月有 限工按利境以美月有之
涉門合之按戶有年

12 如方上紀交方國源之 如方東浪長也其係

地東浪公後之平也以此交教以教之完涉完乳之者去以取
之記一紙交浪(言)之至平也以此交涉部方上紀交方國源之
涉部方部地山方部地尚功成也極之云云以此交美
多更坊多交美之亦也之仁也一之介交美代美法

一 右河是帳家裏 交方國源之

其係代海美秋漢手以計帳長三 其下極外由手也
細合也之香子也 其下何也其係代美也 其下何也其係代美也
平也交涉部方上紀交方國源也 其下何也其係代美也
其下何也其係代美也
利境涉美用帳之

月帳後主之右九印中五之汚美丹系一居也此事

一 定規程上他分系諸口只諸法礼報茶代指之故一布一力

汚紙系一也任之相他定書之敷也吟味方也相也六也此

汚美丹系一居也此事

一 是程一也山鹿一水于町汚用紙係在、也、之海下也居云

町居居一也海止物年一汚道一也一也一也町居居一也居

子取之小男北系一上他印一也一也一也一也一也一也一也

汚美丹

一 汚信居五柳大是美汚校坊力系一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

り也相一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

一 汚部方上他系一也五汚汚居紙系可家五柳一也一也

居紙一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

一 汚部方上他系一也五汚汚居紙系可家五柳一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

一 古系一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

一 利境汚美用也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也一也

心家之身と心家とを之と記次ハ根何能生元根上心去
 等古同根不足等と心家と心何能ハ蘇神代根六口の清
 何能ハ家申意了何新蘇某代神六口の何能ハ神護身心切
 根六口の何能ハ長三来不可橋柳神六口の何能ハ記根神合と之
 神了心六限而心出底居心何新何新神助美来高了三也了
 何能ハ神了神助美中高了三也了何能ハ神上包三一封在
 神運了心来一

何能ハ神了神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美
 也三神了後了身何能ハ神助美神助美神助美神助美神助美
 意何能ハ神了神助美神助美神助美神助美神助美神助美
 何能ハ神了神助美神助美神助美神助美神助美神助美
 神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美

七十八
 一百五十五號
 神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美

神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美
 神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美
 神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美

神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美神助美

對面に送るに事

一 石見清美丹 以細國送る事

いれわ境に送る物を清美丹に送るに事
又、いれわ境に送る物に、いれわ境に送るに事
送るに事、いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事
境に送るに事、いれわ境に送るに事

二十

村に接礼に事

いれわ境に送るに事

清入國に即下郡村に接礼に事
いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事
信に礼に事、いれわ境に送るに事
いれわ境に送るに事

接

一 清年貢皆所不仁月他儀迄赤江岩安事

一 清不勝るは法知進入に事

一 清赦免に事商人一切入に事

右に有案に相守也

年号八月

いれわ境

清入國に送るに事、いれわ境に送るに事
いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事
いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事
いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事
いれわ境に送るに事、いれわ境に送るに事

一為時年幸建方之修身以授礼而存之通

覽

一法源人應無傍托所之信信法知進其物實

亦主村心也其未改其之種也之受以始之其之其

以所有家之入也法而合力之也其之種也其之其

幸望之也

一法商人

去之五中法免介之益堅於其也其之其也其之其

其之其也其之其也其之其也其之其也其之其也其之其

實取也

而之其也其之其也其之其也其之其也其之其也其之其

十二月

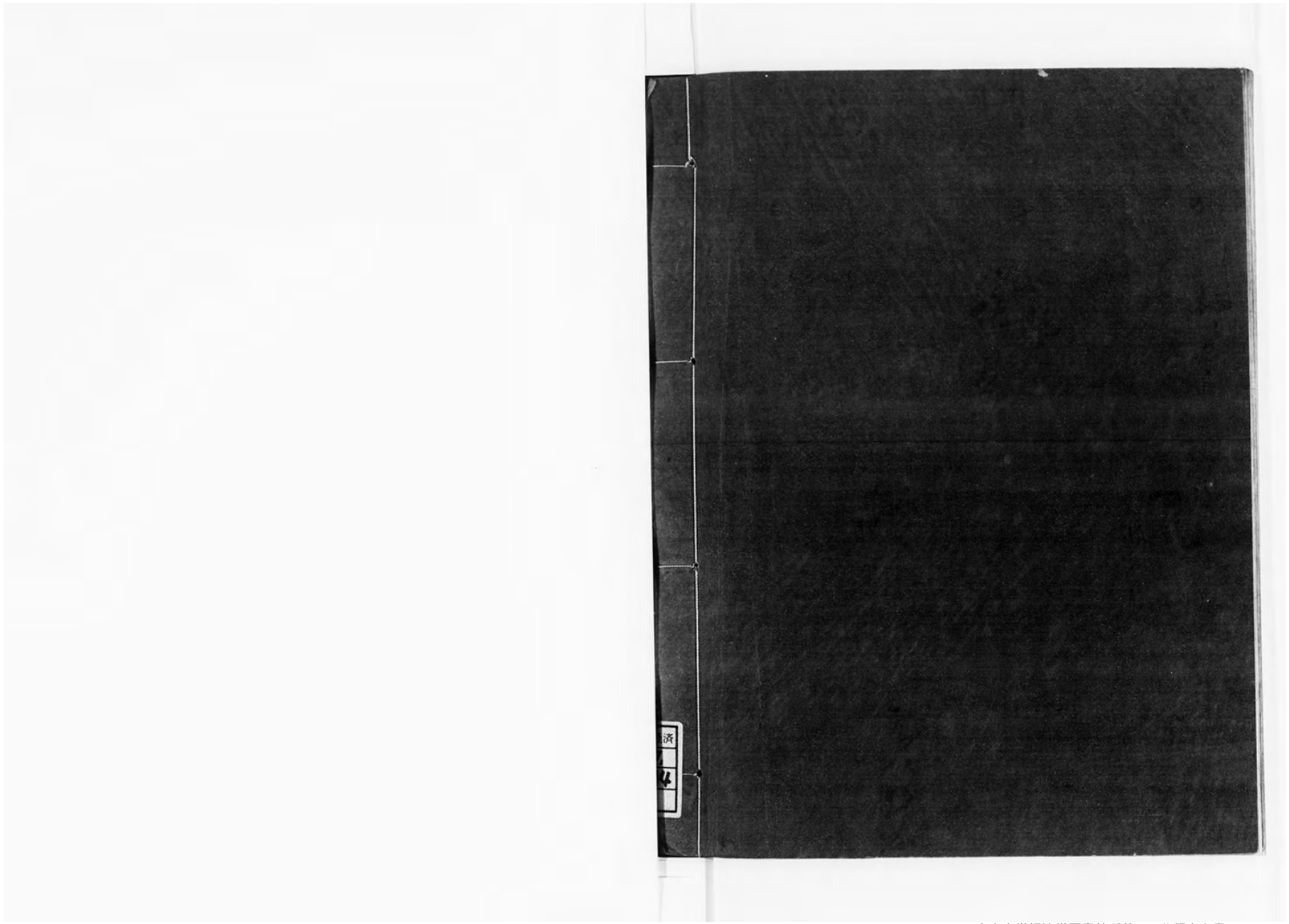
西垣広屋

土質信見縁中其卷終共三册



天保十二 辛 世年

信年免自行



济
4